



『愛知県基幹的広域防災拠点』の整備について

愛知県防災安全局
2022年5月30日(月)

資料13



『愛知県基幹的広域防災拠点』の整備について

- 1) 基本方針
- 2) 整備計画地
- 3) 拠点レイアウト・機能
- 4) 関連事業計画(道路・河川)
- 5) 事業スケジュール等

1)基本方針

基本方針

- 「空港・高速道路」のダブルアクセス性を確保
- 本部機能として「24時間危機管理体制」を確保
愛知県・名古屋市の「消防学校の統合」を検討
- 「支援要員」のベースキャンプ機能を確保
- 「緊急支援物資」の備蓄と中継・分配機能を確保
- 広域医療搬送拠点臨時医療施設(SCU)を設置
- 中部圏の「基幹的な拠点」としても貢献

2)整備計画地

基幹的広域防災拠点の位置

位置選定の条件

- 1.国の計画において、「大規模な広域防災拠点」に指定されている県営名古屋空港に隣接
- 2.高速道路、空港とのダブルアクセスが可能
- 3.地震時の液状化リスク等の災害リスクが低い

整備計画地を
名古屋空港北西部「豊山町青山地区」に選定。



3) 拠点レイアウト(拠点エリア)

基幹的広域防災拠点エリア

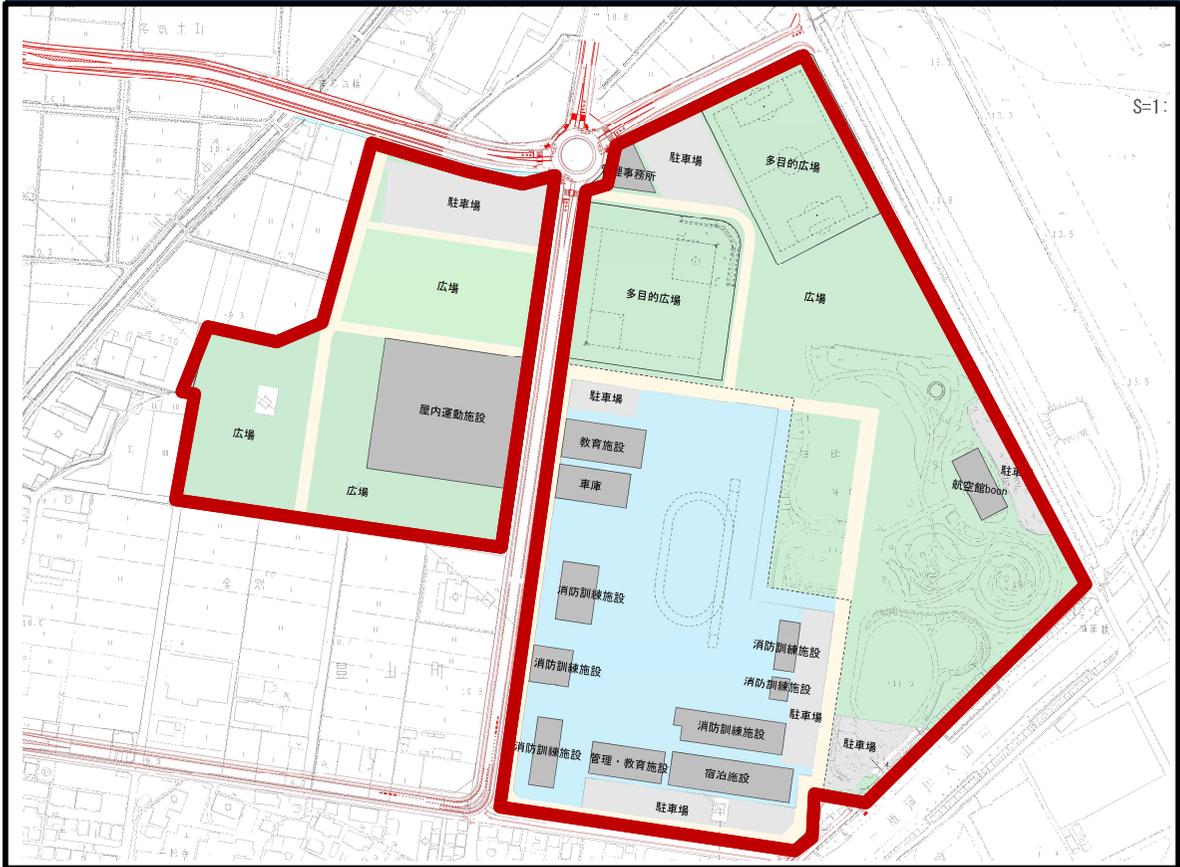
規模の条件

・国の計画に基づき、愛知県全域を後方支援できる規模を確保。

- 施設規模(日あたり最大)
 - 活動要員
約6,500(人)
 - 支援物資
約31,000(パレット)
 - 車両
約3,400(台)



基幹的広域防災拠点エリア

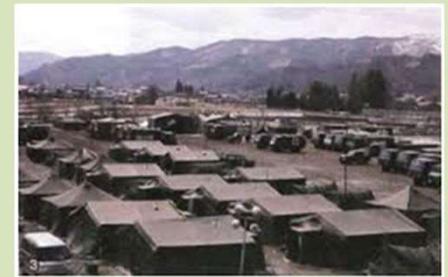


整備面積を約19.2ha(万㎡)で計画

3) 拠点レイアウト(災害時:各エリア機能)



- ・支援物資中継、分配
- ・県備蓄 物資保管
- ・NPO、ボラ活動支援



- ・支援部隊のベースキャンプ、後方支援



- ・拠点指揮本部
- ・広域医療搬送
- ・DMAT後方支援
- ・名古屋空港と相互連絡

県内130か所の防災活動拠点の後方支援を実施し、県内全域の災害応急体制を確保

3)拠点レイアウト(平常時:各エリア機能)



- ・屋内運動施設
- ・イベント会場
- ・防災ビジネス
- ・スタートアップ



「備える! 中日サバイバルキャンプ」より
提供:(株)中日新聞社

- ・多目的広場
- ・防災サバイバル
キャンプ



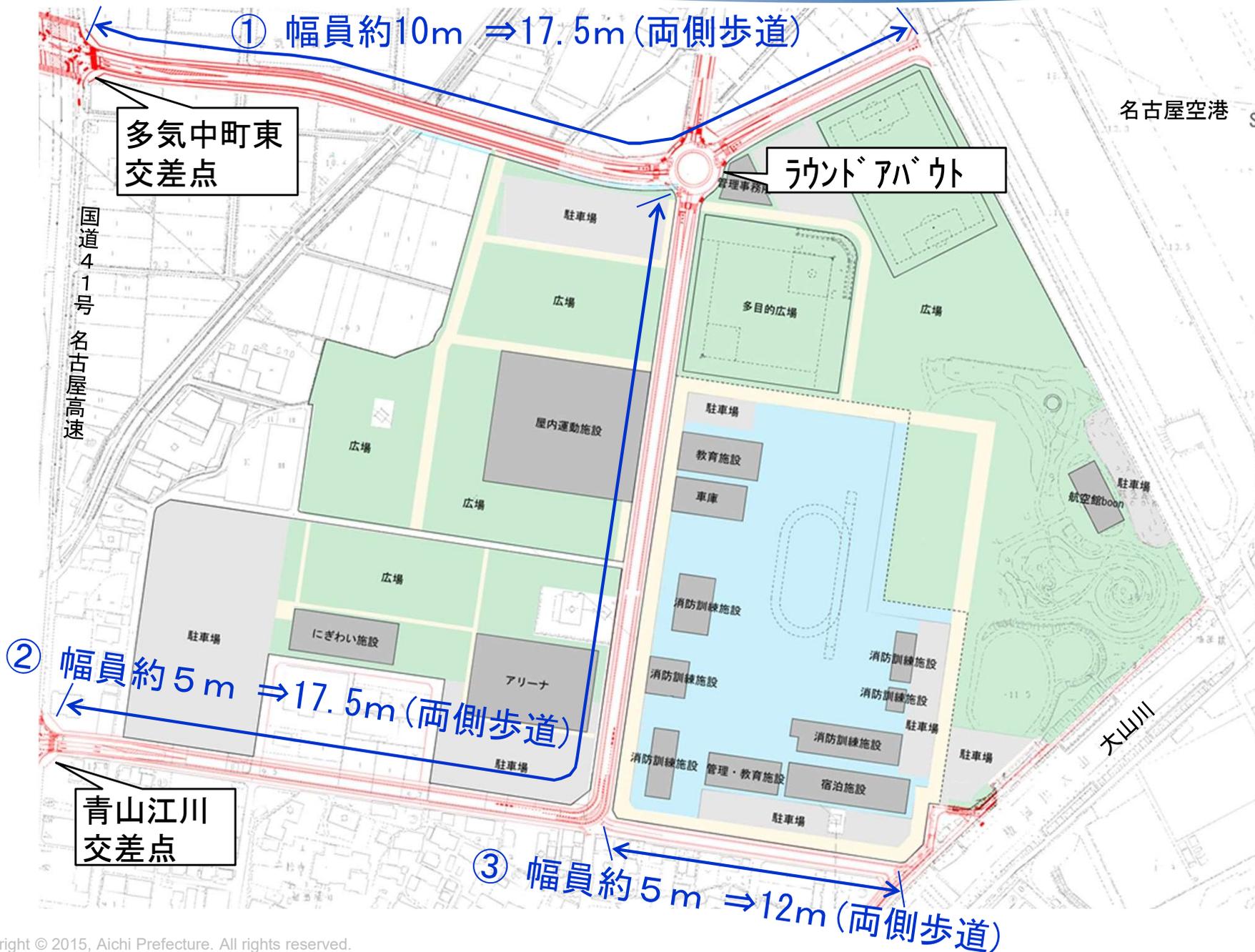
県内外からの集客

エリアの一体的な活用により、
平時利用の活性化・防災力の向上を図る。



- ・消防教育
- ・防災教育
- ・人材育成

4) 関連事業計画(道路・河川)



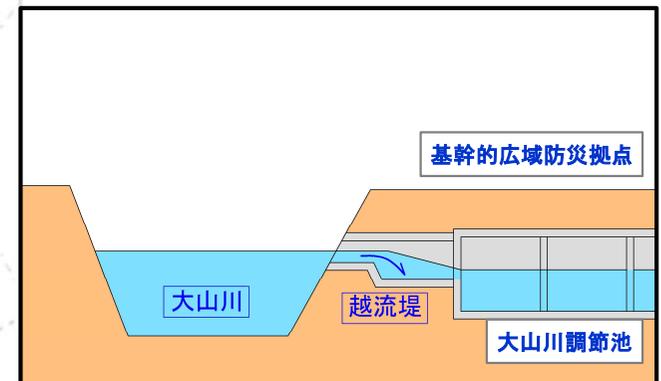
4) 関連事業計画(道路・河川)

大山川調節池(基幹的広域防災拠点の地下に設置)

- ◆目的: 大山川の洪水の一部を約 $22\text{m}^3/\text{s}$ カットし、洪水流量を低減することで、大山川の洪水(整備計画流量 $360\text{m}^3/\text{s}$)を安全に流下させる。
- ◆施設概要: 洪水調節容量: 約 5.6万m^3 、面積: 約 1.8ha 、洪水調節流量: $22\text{m}^3/\text{s}$



◆断面イメージ(3k400付近)



◆調節池イメージ



5)事業スケジュール等

整備スケジュール

・国の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を活用し、2025年度の完了を目指し、集中的な整備を図る。

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
地形測量・整備計画	→					
都市計画決定		★				
用地測量・用地取得・土地造成		→				
PFI手法を用いた施設整備		→				
		アドバイザー契約	基本設計・実施設計、建設・建築工事			★ 完成予定

概算事業費

約350億円

【内訳】

- ・施設整備 : 約230億円
- ・用地取得、土地造成等 : 約120億円